

令和6年度
全国学力・学習状況調査
結果及び分析



茅ヶ崎市教育委員会
教育総務部 学校教育指導課・教育センター
令和6年12月

はじめに

令和6年4月に小学校6年生、中学校3年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」の分析概要をまとめました。

各学校が児童・生徒の学習・生活の状況を踏まえながら、教育課程や学習指導の充実・改善、児童・生徒一人一人の学習改善や主体的に学習に取り組む態度の育成につなげるための指標として提示します。

特に、教科に関する調査では、平均正答率や全国との差異に目が行きがちですが、児童・生徒が問題に取り組む際に、どのようなことに戸惑い、つまづいたのか、指導を工夫することで問題解決能力が向上するのではないかとといったことに目を向けることが、児童・生徒の学びの質を高めていく上で大切であると考えます。

そのために、「課題が見られた問題」等について、「解答類型」を掲載し、児童・生徒の思考の過程が見える形の分析としました。

また、各家庭でも、児童・生徒が取り組んでいる調査の内容や結果について、本報告書を通して共有していただけたら幸いです。

さらに、質問紙調査については、児童・生徒に対する学習意欲等に関する調査と、学校に対する指導方法等に関する調査を実施しております。これらの調査結果からは、児童・生徒の学習意欲が学習状況と密接に結びついている状況が分かることから、学校・家庭・地域で共有することが、今後の児童・生徒の学力向上に結びつくものと考えます。

調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(令和6年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領より抜粋、令和5年12月、文部科学省)

【調査結果の解釈等に関する留意事項】

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が特定の教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要である。

(令和6年度全国学力・学習状況調査報告書より抜粋、令和6年8月、国立教育政策研究所)

調査状況

(1) 調査実施日

令和6年4月18日(木)

(2) 調査内容

① 教科に関する調査

ア 小学校

- ・ 国語(「知識」及び「活用」に関する問題)・・・14問
- ・ 算数(「知識」及び「活用」に関する問題)・・・16問

イ 中学校

- ・ 国語(「知識」及び「活用」に関する問題)・・・15問
- ・ 数学(「知識」及び「活用」に関する問題)・・・16問

② 児童生徒質問紙調査

調査学年の児童・生徒を対象とした、学習意欲や学習方法、生活等に関する質問(小学校69項目・中学校71項目)

③ 学校質問紙調査

各学校を対象とした、指導方法に関する取組等に関する質問(小学校76項目・中学校80項目)

(3) 実施学校数

茅ヶ崎市立小学校19校、茅ヶ崎市立中学校13校 全32校

(4) 実施学年

小学校6年生、中学校3年生

(5) 調査数

① 小学校6年生:国語2,705人・算数2,077人・児童質問紙2,086人

② 中学校3年生:国語1,834人・数学1,836人・生徒質問紙1,830人

小学校6年生を「児童」、中学校3年生を「生徒」と表記しています。

*各教科の正答率や児童生徒質問紙・学校質問紙調査における回答割合等に係る、各グラフや表に示す「割合(%)」については、それぞれ小数第2位を四捨五入していることから、100%にならないこともあります。

全国学力・学習状況調査 教科別平均正答率

	小学校正答率(%)		中学校正答率(%)	
	国語	算数	国語	数学
全 国(公立)	67. 7	63. 4	58. 1	52. 5
神奈川県(公立)	66. 9	64. 0	58. 9	54. 3
茅ヶ崎市	64. 8	62. 5	59. 4	53. 2
全国との差	-2. 9	-0. 9	+1. 3	+0. 7

【総括】

【小学校】

平均正答率について、国語は全国平均をやや下回り、算数は全国平均と同程度である。

【中学校】

平均正答率について、国語、数学ともに全国平均と同程度である。

☆各教科の分析の見方

【正答数分布について】

＊児童生徒全員の点数を昇順に並べ、人数の

25%の値が第1四分位

50%の値が第2四分位（中央値）

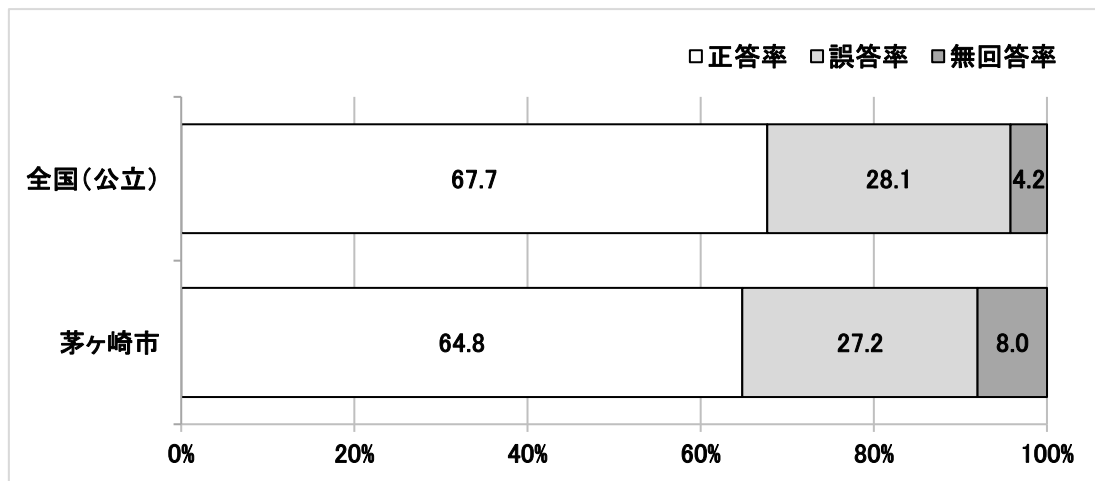
75%の値が第3四分位

四分位範囲=第3四分位－第1四分位で、値が大きいほどばらつきが大きいことを示す。

各教科における解答類型等の分析は、解説資料及び報告書を引用または参考としている。

小学校国語

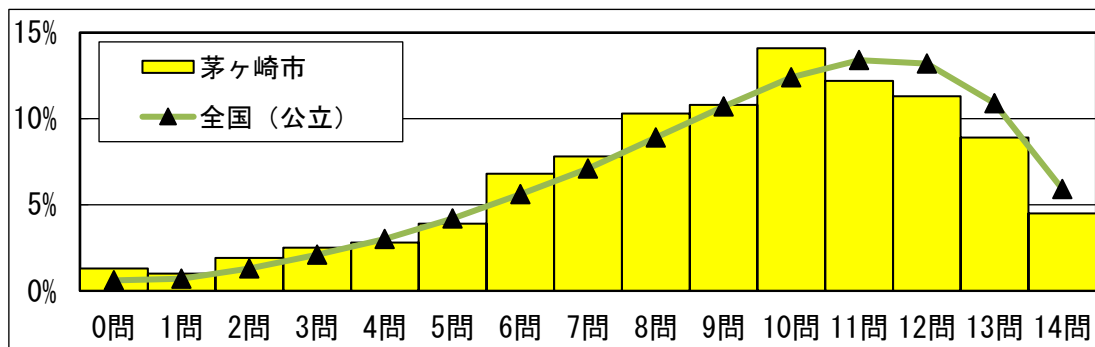
(1) 正答率等比較



(令和6年度小学校国語正答率等比較)

- ◆ 全国の平均正答率が67.7%であるのに対し、茅ヶ崎市は64.8%で、全国平均を2.9ポイント下回る。

(2) 正答数分布

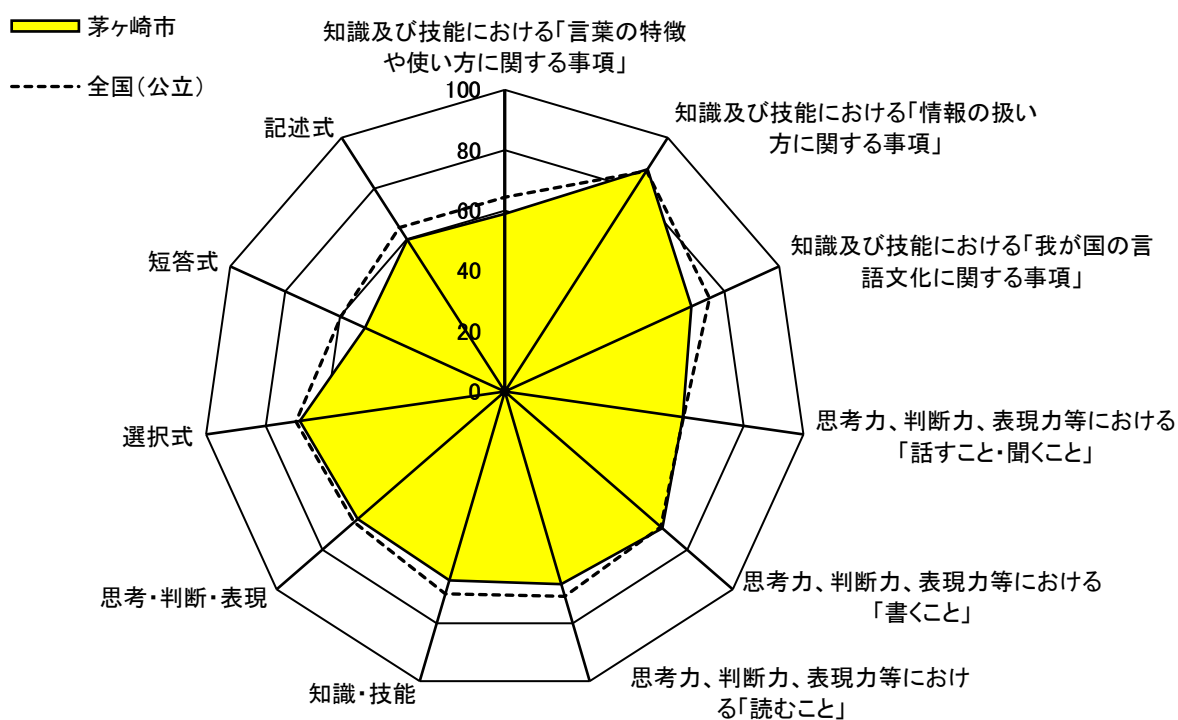


(令和6年度小学校国語正答数分布グラフ)

	茅ヶ崎市	全国(公立)
第3四分位	11問	12問
第2四分位(中央値)	10問	10問
第1四分位	7問	8問
四分位範囲(ばらつき)	4	4

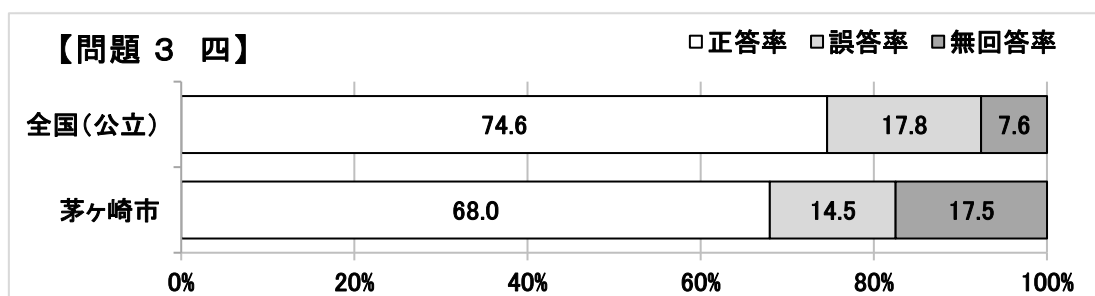
- ◆ 茅ヶ崎市のばらつきと中央値は全国とほぼ同じである。

(3) 領域・観点・問題形式別平均正答率



(令和6年度小学校国語領域・観点・問題形式別レーダーチャート)

- ◆ 知識及び技能における「言葉の特徴や使い方に関する事項」の平均正答率は、58.9%(全国64.4%)であり、**全国平均を5.5ポイント下回る**。
- ◆ 思考力、判断力、表現力等における「読むこと」の平均正答率は、66.5%(全国70.7%)であり、**全国平均を4.2ポイント下回る**。
- ◆ 【問3 四】の知識及び技能における「我が国の言語文化に関する事項」の正答率は、68.0%(全国74.6%)であり、**全国平均を6.6ポイント下回る**。また、**無解答率は、17.5%(全国7.6%)**であり、改善が求められる。



(4) 特に課題が見られた問題

【ピックアップポイント】

全国と比べて、正答率の差が比較的大きかったもの。…問題 3 四

【出題の趣旨】

日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること役立つことに気付くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕 知識及び技能

(3) 我が国の言語文化に関する事項

オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること役立つことに気付くこと。

■評価の観点

知識・技能

【問題の概要】

【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する。

【原さんの読書の記録】

日付	題名	感想
4/10～4/11	大造じいさんとガン	「いつまでも、いつまでも、見まもっていました。」という最後の一文が心に残った。残雪への気持ちが変化するところに感動した。
4/21～4/25	星の王子さま	キツネが「心で見なくちゃ」と話したところが、形のないものの大切さを考えるきっかけになった。
4/27～4/29	はらっぱのおはなし 「オニグモじいさんの朝ごはん」	「わしが食って生きているのはな、朝日のひかりだよ」という言葉に心があたたかくなった。シリーズの他の作品も読みたい。
4月のふり返し		

- 1 読書を通して、学校図書館や地いきの図書館の利用の方法を知ることができると気づいた。
- 2 読書を通して、科学的な事実について、疑問に思ったことを調べて解決できると気づいた。
- 3 読書を通して、自分が文章を書くときに役に立つ書き方を学ぶことができると気づいた。
- 4 読書を通して、自分の心にひびく言葉や今までになかった考えを見つけることができると気づいた。

四 原さんの学級では、日ごろから読んだ本を記録しています。次は、【原さんの読書の記録】です。原さんは自分の記録を読み返し、気づいたことを [] にまとめています。 [] に入る内容として最も適切なものを、下の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【平均正答率(%)】

正答	茅ヶ崎市	全国(公立)
下記参照	68.0	74.6

- ◆ 全国平均を6.6ポイント下回る。

【解答類型及び解答の割合(%)】

選択肢の1から4に記載されている内容は、いずれも読書の意義として考えられることであるが、ここでは、原さんが、【原さんの読書の記録】を読み返して、「読書を通して、自分の心にひびく言葉や今までになかった考えを見つけることができると気付いた」ことを捉えることが求められる。				
類 型	正 答	解答類型	割合(%)	
			茅ヶ崎市	全国(公立)
1		1 と解答しているもの	2.2	2.9
2		2 と解答しているもの	4.1	5.0
3		3 と解答しているもの	7.8	9.6
4	◎	4 と解答しているもの	68.0	74.6
99		上記以外の解答	0.5	0.2
0		無解答	17.5	7.6

「◎」…解答として求める条件を全て満たしている正答

- ◆ 茅ヶ崎市において、無解答率が17.5%(全国7.6%)であり、全国平均を9.9ポイント上回る。

- ◆ 学習指導に当たっては、次のことに留意することが大切である。

日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付くためには、本などの中の言葉から自分を支える言葉を見付けたり、今までになかった考えを発見したりすることなどによって、読書の意義をより強く実感できるようにすることが大切である。

本設問では、原さんが、【原さんの読書の記録】を読み返して、「読書を通して、自分の心にひびく言葉や今までになかった考えを見つけることができると気づいた」ことを捉えることが求められる。

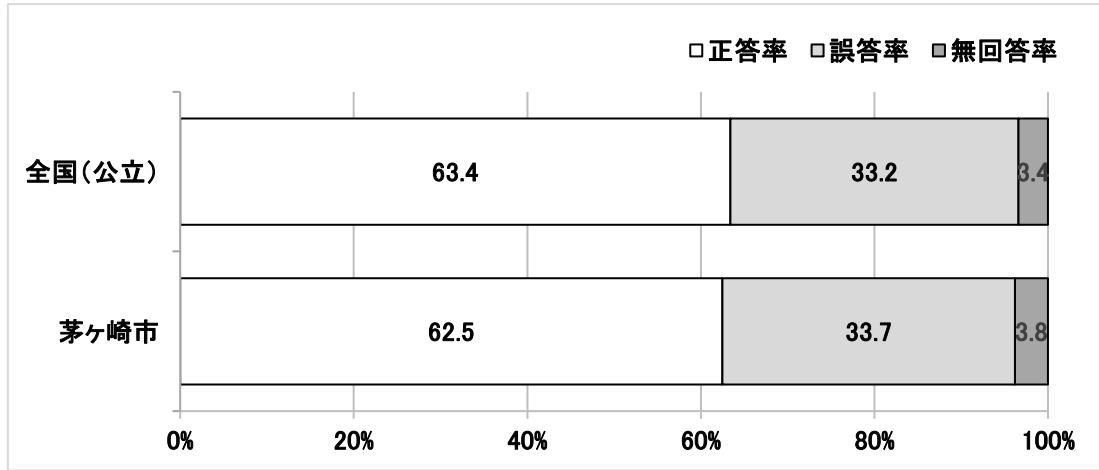
学習指導に当たっては、国語科における、「読むこと」の学習との関連を意識して読書活動の年間指導計画を立て、「朝の読書活動」や「読書の記録」等の取組を通して、日常的に読書に親しむことができるようにすることが大切である。

その際、「読書の記録」を見返すなどして、児童自身の気付きを引き出す学習場面を設定すると効果的である。

(令和6年度全国学力・学習状況調査報告書より一部抜粋、令和6年8月、文部科学省)

小学校算数

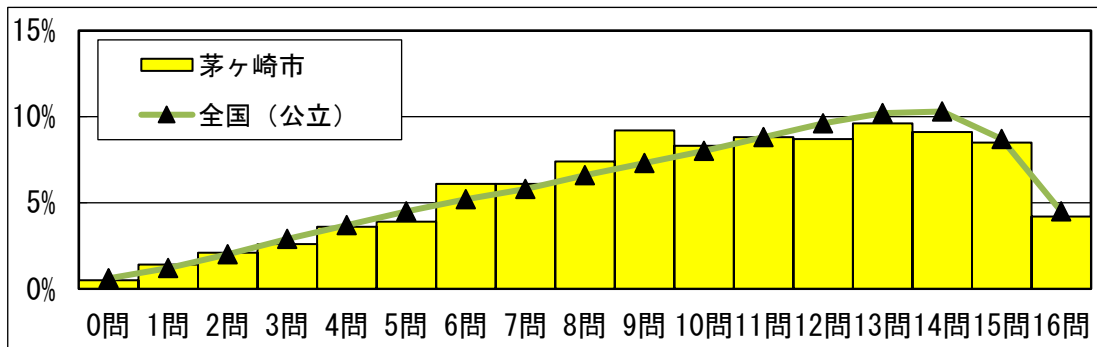
(1) 正答率等比較



(令和6年度小学校算数正答率等比較)

- ◆ 全国の平均正答率が63.4%であるのに対し、茅ヶ崎市は62.5%で、全国と同程度である。

(2) 正答数分布

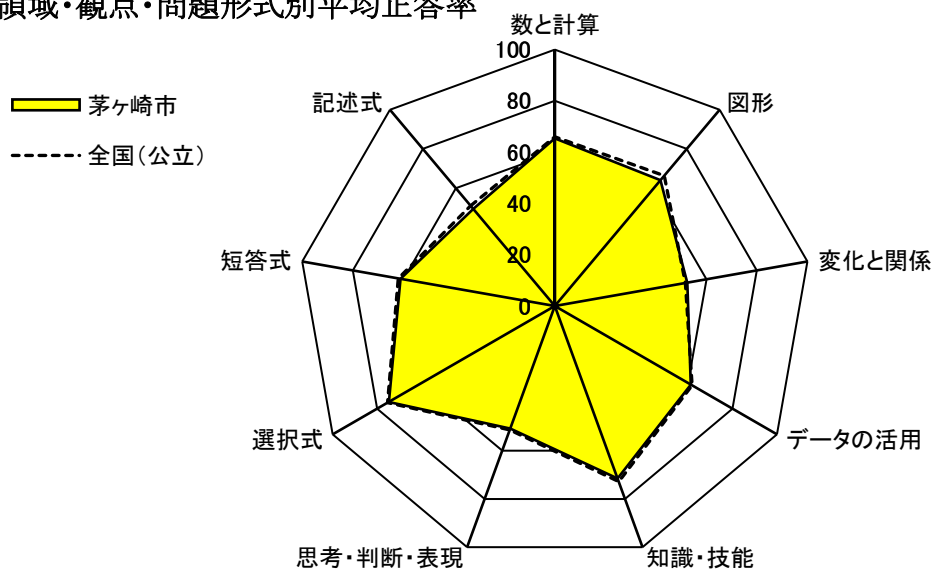


(令和6年度小学校算数正答数分布グラフ)

	茅ヶ崎市	全国(公立)
第3四分位	13問	13問
第2四分位(中央値)	10問	11問
第1四分位	7問	7問
四分位範囲(ばらつき)	6	6

- ◆ 茅ヶ崎市のばらつきは全国と同じだが、中央値は全国を下回る。

(3) 領域・観点・問題形式別平均正答率



(令和6年度小学校算数領域・観点・問題形式別レーダーチャート)

- ◆ 「図形」の平均正答率は**64.1%**(全国66.3%)、であり、**全国平均を2.2ポイント下回る。**

(4) 特に課題が見られた問題

【ピックアップポイント】

全国と比べて、正答率の差が最も大きかったもの。…問題 4 (1)

【出題の趣旨】

除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第5学年〕 A 数と計算

(3) 小数の乗法及び除法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ) 小数の乗法及び除法の計算ができること。また、余りの大きさについて理解すること。

■評価の観点

知識・技能

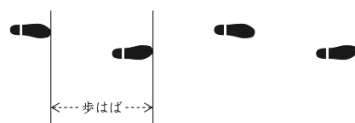
【問題】

4

あいなさんたちは、時間や速さなどについて考えています。

(1) あいなさんは、家から学校までの歩数を求めます。

家から学校までの道のりは、540 mです。あいなさんの歩はばを0.6 mとします。



家から学校までの歩数は、 $540 \div 0.6$ の式で求めることができます。
 $540 \div 0.6$ を計算しましょう。

【問題の概要】

$540 \div 0.6$ を計算する。

【平均正答率(%)】

正答	茅ヶ崎市	全国(公立)
下記参照	65.1	70.1

◆ 全国平均を5.0ポイント下回る。

【解答類型及び解答の割合(%)】

【解答類型2】は、除数の0.6のみ10倍して整数にし、 $540 \div 6$ を計算していると考えられる。				
【解答類型3】は、除数の0.6を10倍して $540 \div 6$ を計算し、その商を $1/10$ にしていると考えられる。又は、除数の0.6を10倍し、被除数の540を $1/10$ にして $54 \div 6$ を計算していると考えられる。				
【解答類型4】は、540又は0.6について、位取りを誤って計算していると考えられる。				
類型	正答	解答類型	割合(%)	
			茅ヶ崎市	全国(公立)
1	◎	900 と解答しているもの	65.1	70.1
2		90 と解答しているもの	17.6	16.1
3		9 と解答しているもの	6.0	4.2
4		90.9 以外の位取りの誤りがあるもの	1.9	1.8
5		除数と被除数を逆にして計算を考えているもの	0.0	0.0
99		上記以外の解答	5.2	4.7
0		無解答	4.1	3.1

「◎」…解答として求める条件を全て満たしている正答

◆ 学習指導に当たっては、次のことに留意することが大切である。

除数が小数である場合の除法の計算について、整数の場合の計算の意味や計算の仕方を活用して、計算をすることができるようにすることが重要である。

指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、 $540 \div 0.6$ の計算の仕方を考える活動が考えられる。その際、筆算による計算の仕方を形式的に指導するだけではなく、下のように、除法に関して成り立つ性質を活用して、 $540 \div 0.6$ の商が $5400 \div 6$ の商である900 と等しいことを理解できるようにすることが大切である。

わり算の性質わいしつを使って小数のわり算の計算をしよう。
 $540 \div 0.6$


540 ÷ 0.6 のわられる数とわる数に10をかけます。

$$\begin{array}{rcl}
 540 & \div & 0.6 = \square \\
 \downarrow \times 10 & & \downarrow \times 10 \\
 5400 & \div & 6 = 900
 \end{array}$$

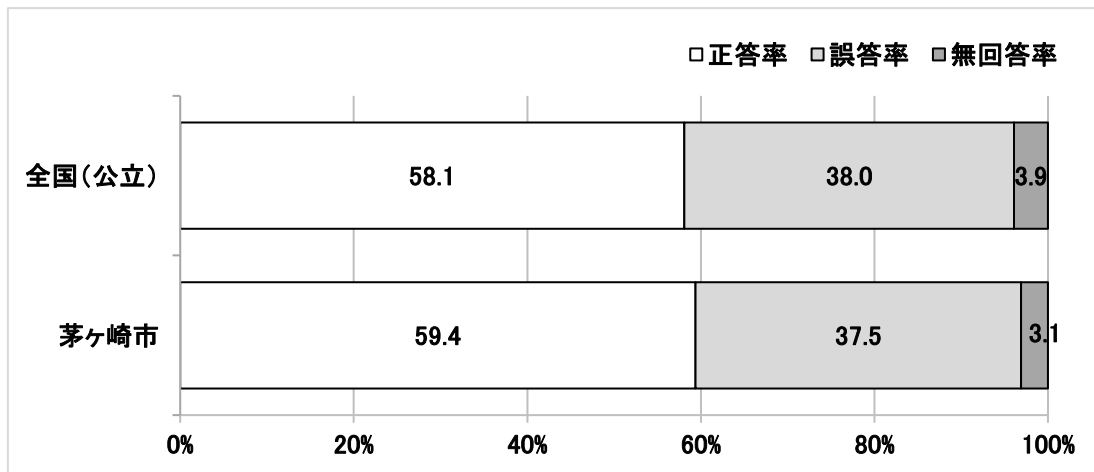

商は変わらないから、□に入る数は900です。

わり算の性質を使うと、小数のわり算を整数のわり算に直して考えることができる。

(令和6年度全国学力・学習状況調査報告書より抜粋、令和6年8月、文部科学省)

中学校国語

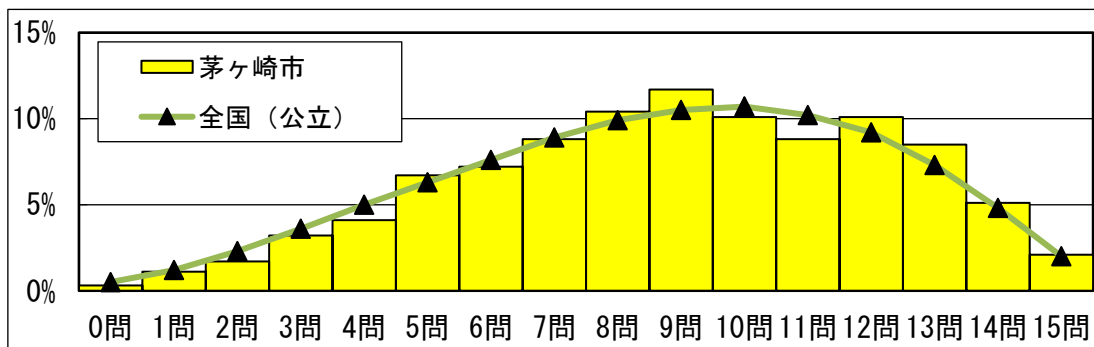
(1) 正答率等比較



(令和6年度中学校国語正答率等比較)

- ◆ 全国の平均正答率が58.1%であるのに対し、茅ヶ崎市も59.4%で、全国と同程度である。

(2) 正答数分布

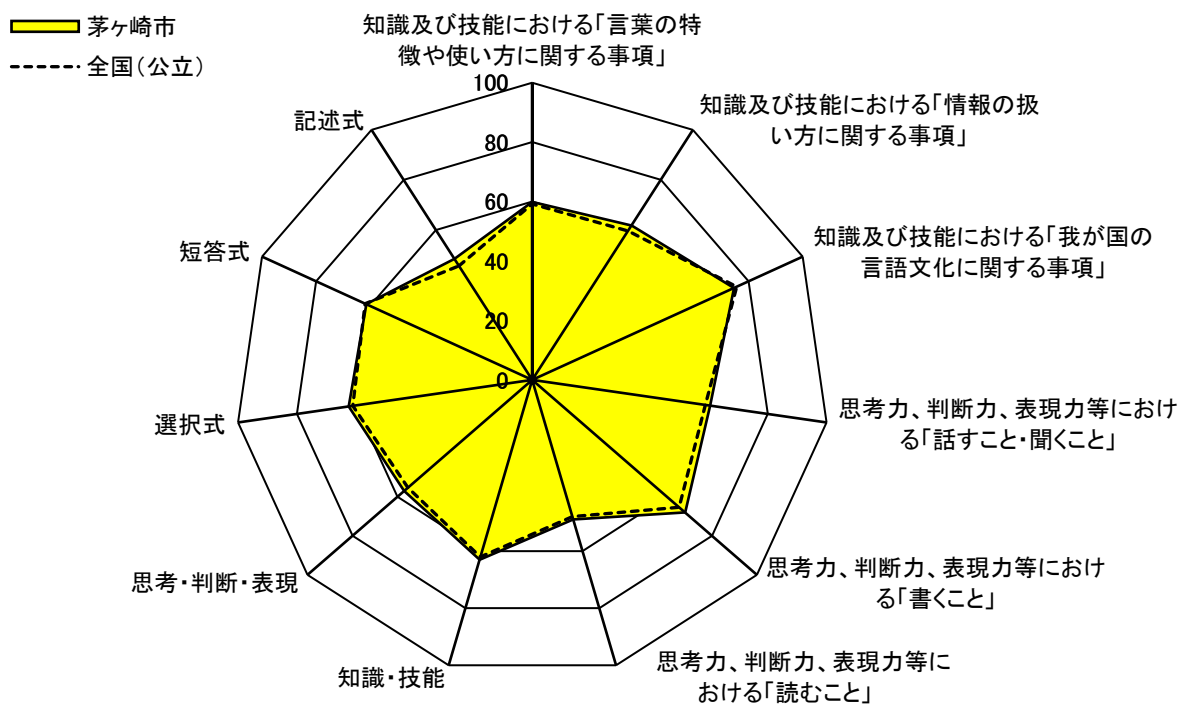


(令和6年度中学校国語正答数分布グラフ)

	茅ヶ崎市	全国(公立)
第3四分位	12問	11問
第2四分位(中央値)	9問	9問
第1四分位	7問	6問
四分位範囲(ばらつき)	5	5

- ◆ 茅ヶ崎市のばらつきと中央値は全国と同じである。

(3) 領域・観点・問題形式別平均正答率



(令和6年度中学校国語領域・観点・問題形式別レーダーチャート)

- ◆ 記述式問題の平均正答率は、48.5% (全国45.5%) であり、**全国平均を3.0ポイント上回る**。特に、問題 **3** 四 の平均正答率は54.0% (全国49.3%) であり、全国平均を4.7ポイント上回る。

(4) 特に課題が見られた問題

【ピックアップポイント】

全国と比べて、正答率の差が最も大きかったもの。…問題 **3** 三

【出題の趣旨】

文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第2学年〕知識及び技能

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

ウ 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。《漢字》

■評価の観点

知識・技能

【問題の概要】

漢字を書く(みちたりた)。

【平均正答率(%)】

正答	茅ヶ崎市	全国(公立)
下記参照	64.6	68.8

◆ 全国平均を4.2ポイント下回る。

【解答類型及び解答の割合(%)】

「満」は、小学校第4学年の配当漢字、「足」は、小学校第1学年の配当漢字である。				
類 型	正 答	解答類型	割合(%)	
			茅ヶ崎市	全国(公立)
1	◎	「満(ち)足(りた)」と解答しているもの	64.6	68.8
2		「満(ち)足(りた)」のうち「満」だけ正しく解答しているもの	8.0	7.4
3		「満(ち)足(りた)」のうち「足」だけ正しく解答しているもの	8.2	6.1
99		上記以外の解答	8.8	7.6
0		無解答	10.5	10.2

「◎」…解答として求める条件を全て満たしている正答

◆ 学習指導に当たっては、次のことに留意することが大切である。

漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を読んだり書いたりすることができるように指導することが大切である。

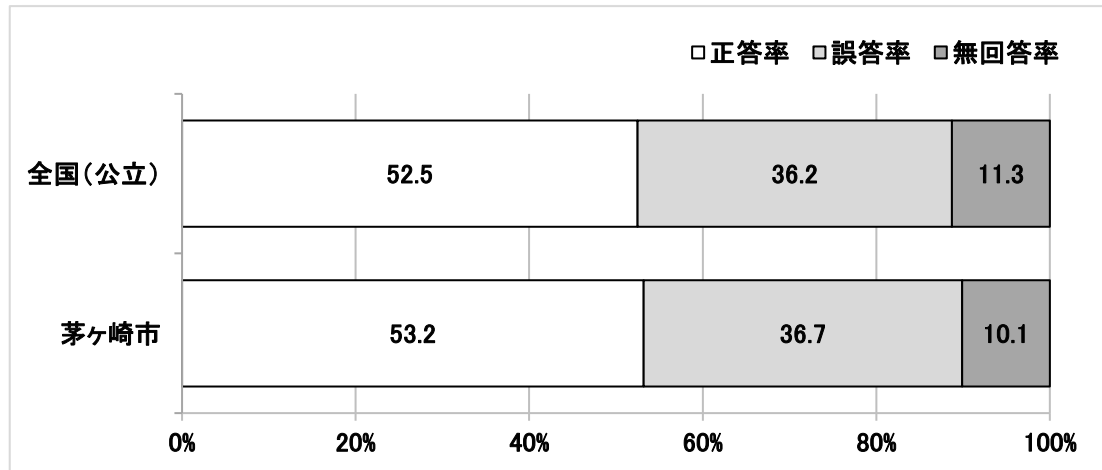
漢字の書きについては、小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字1,026字について、中学校修了までに文や文章の中で使い慣れる必要がある。そのため、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことが大切である。また、1人1台端末等を活用して文字を入力する際にも、漢字がもつ意味に注意して、適切に選択する力を養うことが重要である。さらに、文章の中ばかりではなく、「A話すこと・聞くこと」の学習の中や、他教科等の学習や日常の会話の中でも漢字の書きについて意識するよう指導することも大切である。これらの学習の際には、必要に応じて辞書を引くことを習慣付けることが有効である。また、各学年の語彙の指導事項の内容と関連付け、音訓を意識し、漢字の意味に注意しながら漢字を身に付けることができるよう指導することが大切である。

なお、漢字の読みについては、学習指導要領の学年別漢字配当表に示されている漢字1,026字に加え、中学校修了までに学年別漢字配当表以外の常用漢字の大体を読むことを求めている。

(令和6年度全国学力・学習状況調査報告書より抜粋、令和6年8月、文部科学省)

中学校数学

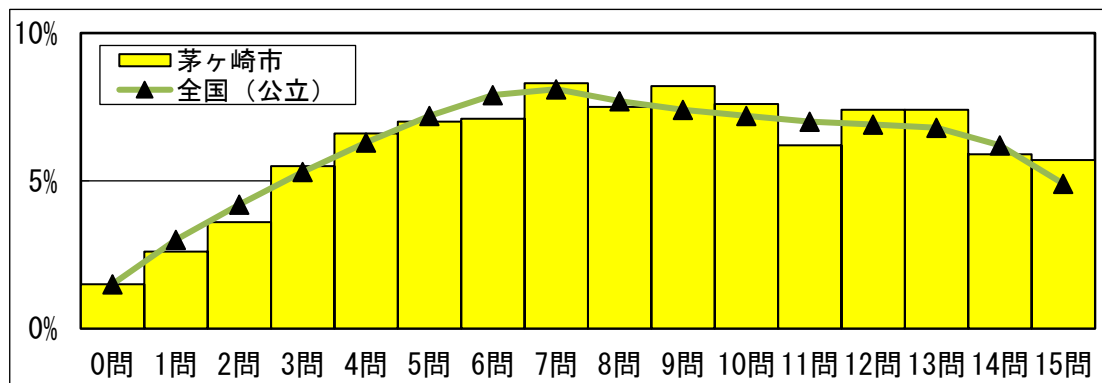
(1) 正答率等比較



(令和6年度中学校数学正答率等比較)

- ◆ 全国の平均正答率が、52.5%であるのに対し、茅ヶ崎市は53.2%で、全国と同程度である。

(2) 正答数分布

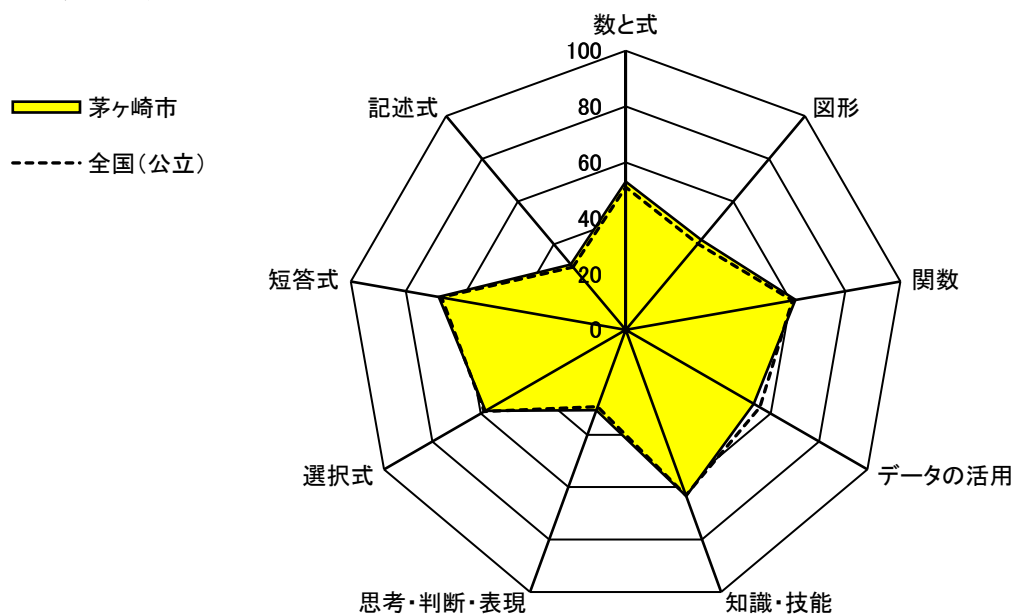


(令和6年度中学校数学正答数分布グラフ)

	茅ヶ崎市	全国(公立)
第3四分位	12問	12問
第2四分位(中央値)	9問	8問
第1四分位	5問	5問
四分位範囲(ばらつき)	7	7

- ◆ 茅ヶ崎市のばらつきは全国と同程度だが、中央値は全国を上回る。

(3) 領域・観点・問題形式別平均正答率



(令和6年度中学校算数領域・観点・問題形式別レーダーチャート)

- ◆ データの活用に関する問題の正答率は53.0%(全国55.5%)であり、全国平均を2.5ポイント下回る。

(4) 特に課題が見られた問題

【ピックアップポイント】

全国と比べて、正答率の差が最も大きかったもの。…問題 7 (3)

【出題の趣旨】

複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕 D データの活用

(1) データの分布について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解すること。

■評価の観点

知識・技能

【問題の概要】

車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ。

問題 7

(3) 二人は、次のプログラムを見て、話し合っています。

プログラム

段階 ② の速さ
で前に進む

障害物からの距離が ④ cm
より小さいことを感知する

止まる

海斗さん「速さを段階1にして、距離を変えると、設定した位置から進んだ距離はどうか。」

咲希さん「設定した位置から進んだ距離の分布の傾向が変わるかもしれないよ。」

海斗さん「距離 ④ の値を10より大きくしてみよう。」

海斗さんは、速さを段階1に設定して、障害物からの距離 ④ cm の設定を変えたとき、次の図3の ④ cm の位置から進んだ距離がどうか調べることにしました。そこで、④ の設定をすでに調べた10 cmのほか、新たに100 cm、200 cmにして、それぞれ20回ずつ調べてデータを集めました。そして、データの分布の傾向を比較するために、箱ひげ図に表しました。

図3

設定した位置から進んだ距離の分布

	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
10 cm	1.5	1.9	2.0	2.2	2.4
100 cm	1.5	1.7	1.9	2.0	2.2
200 cm	1.6	1.8	1.9	2.1	2.2

段階1の速さで、障害物からの距離を10 cm、100 cm、200 cmと長くしていくと、四分位範囲はどうなりますか。設定した位置から進んだ距離の分布から読み取り、正しいものを下のアからオまでの中から1つ選びなさい。

ア 四分位範囲はだんだん大きくなる。

イ 四分位範囲はだんだん小さくなる。

ウ 四分位範囲は大きくなって、小さくなる。

エ 四分位範囲は小さくなって、大きくなる。

オ 四分位範囲は変わらない。

【平均正答率(%)】

正答	茅ヶ崎市	全国(公立)
下記参照	43.4	48.5

◆ 全国平均を5.1ポイント下回る。

【解答類型及び茅ヶ崎市の解答の割合(%)】

◆ 【解答類型1、3】は、四分位範囲を理解していないと考えられる。 ◆ 【解答類型2】は、複数の集団のデータの分布から、範囲に着目したと考えられる。 ◆ 【解答類型4】は、複数の集団のデータの分布から、第1四分位数や第3四分位数に着目したと考えられる。				
	正答	解答類型	割合(%)	
			茅ヶ崎市	全国(公立)
1		ア と解答しているもの(四分位範囲はだんだん大きくなる)	7.6	8.0
2		イ と解答しているもの(四分位範囲はだんだん小さくなる)	23.6	22.2
3		ウ と解答しているもの(四分位範囲は大きくなって、小さくなる)	9.6	8.6
4		エ と解答しているもの(四分位範囲は小さくなって、大きくなる)	14.9	11.7
5	◎	オ と解答しているもの(四分位範囲は変わらない)	43.4	48.5
99		上記以外の解答	0.0	0.0
0		無回答	0.9	0.9

「◎」…解答として求める条件を全て満たしている正答

◆ 学習指導に当たっては、次のことに留意することが大切である。

複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取る活動を通して、四分位範囲の必要性和意味を理解できるように指導することが大切である。その際、四分位範囲はデータの散らばりの度合いを表す指標であり、第3四分位数と第1四分位数の差で求められることを確認することが大切である。また、極端にかけ離れた値が一つでもあると、最大値や最小値は大きく変化し、範囲はその影響を受けやすいが、四分位範囲はその影響をほとんど受けないという性質を確認することも大切である。

本設問を使って授業を行う際には、障害物からの距離の設定を長くしていった場合の設定した位置から進んだ距離の分布の傾向について考察する活動を取り入れることが大切である。その際、三つのデータからそれぞれの四分位範囲を求め、それらの値を比較して「四分位範囲は変わらない。」と読み取るだけでなく、箱ひげ図の箱の位置などに関連付けてデータの分布の傾向について考察する場面を設定することが考えられる。こうした活動を通して、四分位範囲の必要性和意味について理解を深められるようにすることが大切である

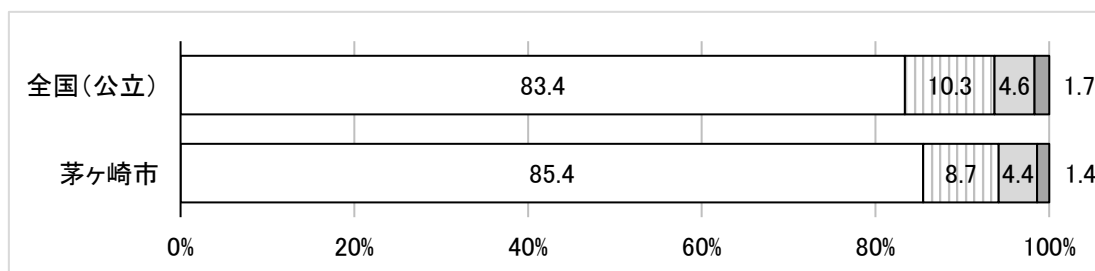
(令和6年度全国学力・学習状況調査報告書より抜粋、令和6年8月、文部科学省)

児童生徒質問紙・学校質問紙調査から

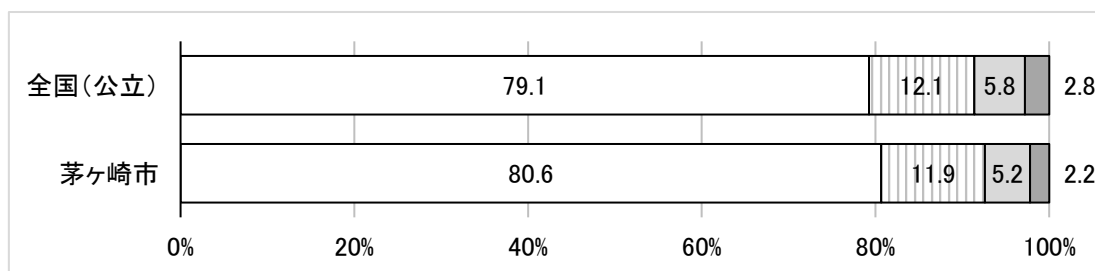
基本的な生活習慣に関する状況

(1) 【児童生徒質問紙】「朝食を毎日食べていますか」

【小学校】



【中学校】



□ している ▨ どちらかといえば、している □ あまりしていません ■ 全くしていません

◆ 肯定的に回答した割合は、児童・生徒ともに90%を超えている。

【本市における児童・生徒の朝食喫食率と平均正答率との相関】

* 下表の児童生徒数の割合は、質問紙に回答した児童生徒を対象としているため、上表の値と異なる。

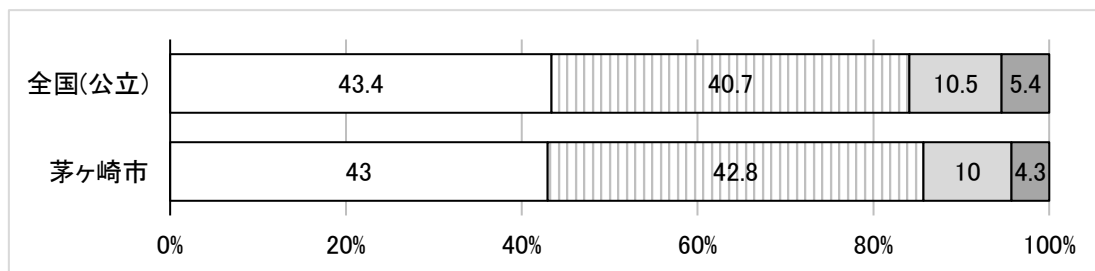
朝食を毎日食べていますか		児童数の割合(%)	平均正答率(%)		生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
			国語	算数		国語	数学
1	している	85.6	66.3	64.2	81.2	61.2	55.3
2	どちらかといえば、しています	8.7	57.9	56.5	11.6	54.7	48.6
3	あまりしていません	4.3	55.6	48.6	5.1	51.4	40.7
4	全くしていません	1.4	58.2	48.7	2.0	48.3	43.1

◆ 肯定的に回答した児童・生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

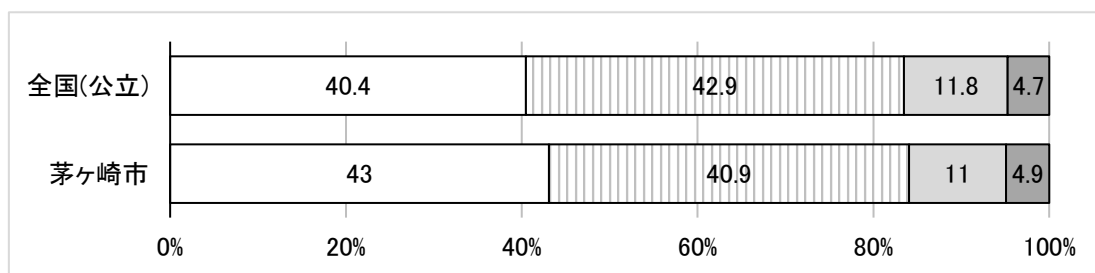
自己肯定感に関する状況

(1) 【児童生徒質問紙】「自分には、よいところがあると思いますか」

【小学校】



【中学校】



☐ 当てはまる
 ☒ どちらかといえば、当てはまる
 ☐ どちらかといえば、当てはまらない
 ☐ 当てはまらない

◆ 肯定的に回答した割合は、児童・生徒ともに約80%となっている。

【本市における児童・生徒の自己肯定感と平均正答率との相関】

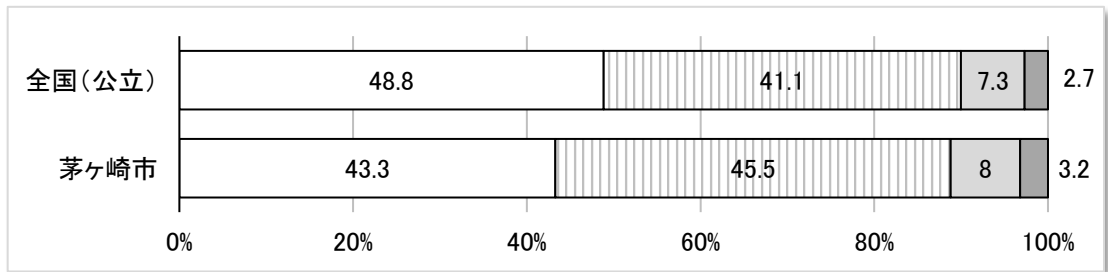
* 下表の児童生徒数の割合は、質問紙に回答した児童生徒を対象としているため、上表の値と異なる。

自分には、よいところがあると思いますか		児童数の割合(%)	平均正答率(%)		生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
			国語	算数		国語	数学
1	当てはまる	42.9	68.0	66.3	43.3	61.1	54.7
2	どちらかといえば、当てはまる	42.9	63.3	60.8	41.0	59.7	53.5
3	どちらかといえば、当てはまらない	10.1	61.4	56.8	10.7	57.3	51.6
4	当てはまらない	4.2	59.1	57.1	4.8	53.2	48.2

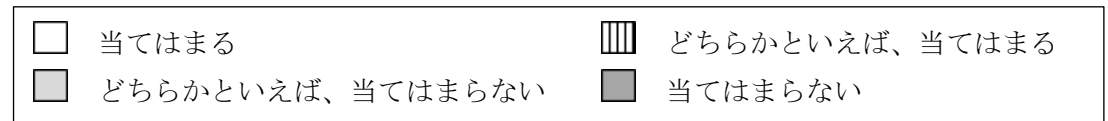
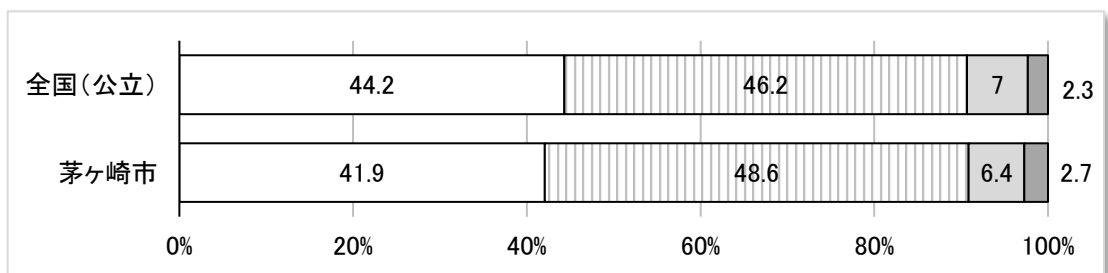
◆ 肯定的に回答した児童・生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

(2) 【児童生徒質問紙】「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」

【小学校】



【中学校】



- ◆ 肯定的に回答した割合は、児童・生徒ともに全国とほぼ同じである。
 - ◆ 【本市における児童・生徒の自己肯定感と平均正答率との相関】
- * 下表の児童生徒数の割合は、質問紙に回答した児童生徒を対象としているため、上表の値と異なる。

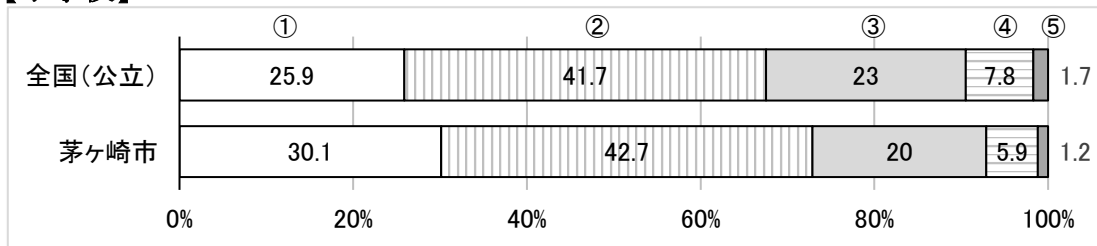
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか		児童数の割合 (%)	平均正答率		生徒数の割合 (%)	平均正答率	
			(%)			(%)	
			国語	算数		国語	数学
1	当てはまる	43.4	67.1	64.9	42.1	60.8	54.1
2	どちらかといえば、当てはまる	45.4	63.9	61.3	48.6	59.8	53.7
3	どちらかといえば、当てはまらない	8.1	61.6	60.5	6.3	54.7	47.3
4	当てはまらない	3.1	59.6	55.8	2.7	54.3	56.1

- ◆ 肯定的に回答した児童・生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

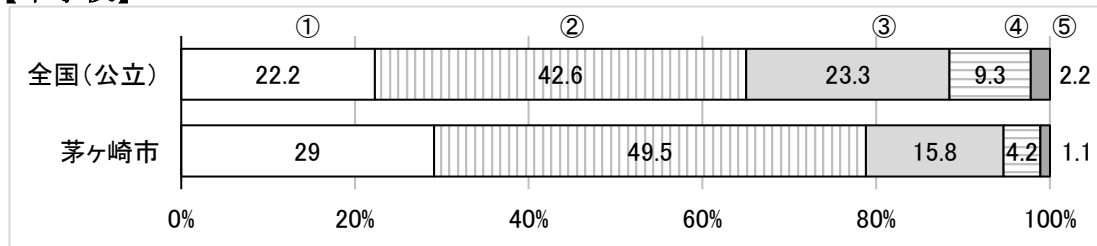
主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

- (1) 【児童生徒質問紙】「5年生まで[中学生は1, 2年生のとき]に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」

【小学校】



【中学校】



- ① 発表していた ② どちらかといえば、発表していた ③ どちらかといえば、発表していなかった
④ 発表していなかった ⑤ 考えを発表する機会はなかった

- ◆ 肯定的な回答が、児童は72.8%(全国67.6%)と、全国平均を5.2ポイント上回り、生徒は78.5%(全国64.8%)と、全国平均を13.7ポイント上回っている。

【本市における授業中の発表の工夫状況と平均正答率との相関】

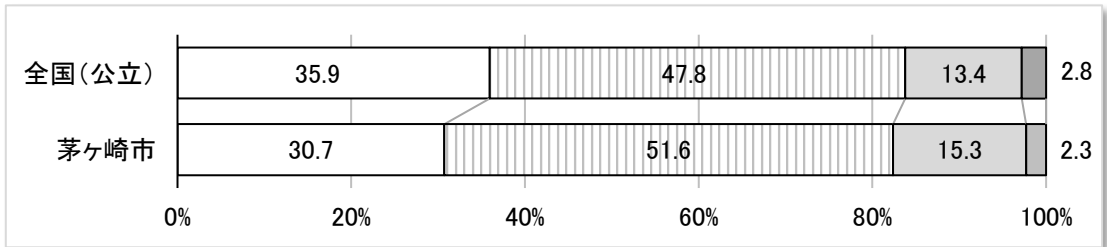
* 下表の児童生徒数の割合は、質問紙に回答した児童生徒を対象としているため、上表の値と異なる。

5年生まで(中学生は1, 2年生のとき)に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか		児童数の割合(%)	平均正答率(%)		生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
			国語	算数		国語	数学
1	発表していた	30.2	73.6	70.6	29.5	66.9	61.3
2	どちらかといえば、発表していた	42.7	63.2	61.6	49.7	59.2	53.3
3	どちらかといえば、発表していなかった	19.9	59.0	57.1	15.8	52.3	44.5
4	発表していなかった	5.9	55.7	50.1	3.9	45.0	39.9
5	考えを発表する機会はなかった	1.2	54.3	52.3	0.9	40.8	29.3

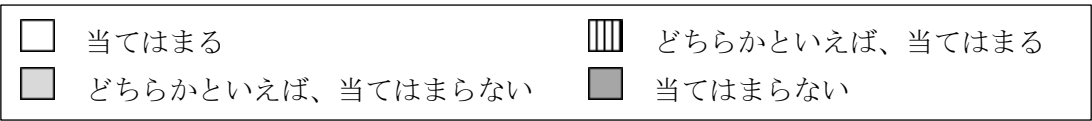
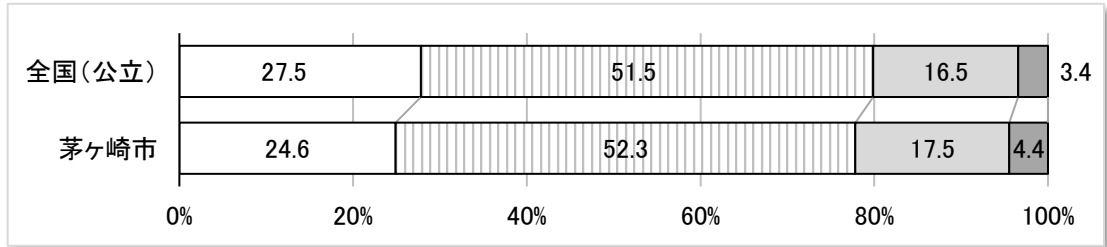
- ◆ 肯定的な回答をした児童・生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

(2) 【児童生徒質問紙】「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか」と

【小学校】



【中学校】



◆ 肯定的な回答が、児童は82.3% (全国83.7%)と、生徒は76.9% (全国79.0%)と、全国平均とほぼ同じである。

【本市における授業中の学習を次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりしている児童・生徒と平均正答率との相関】

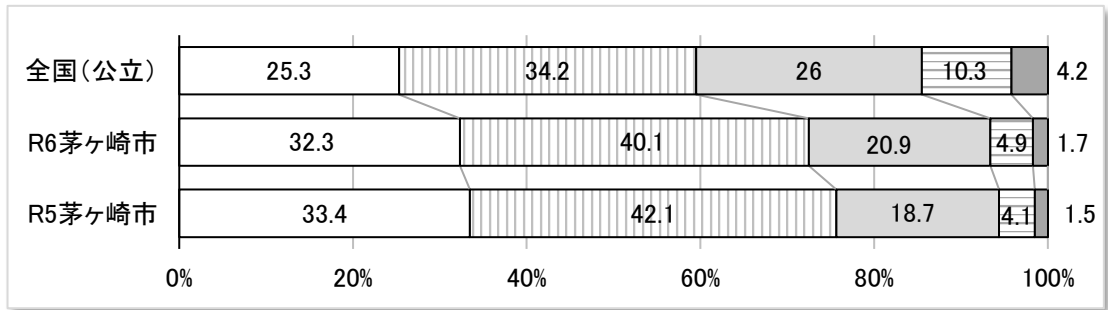
* 下表の児童生徒数の割合は、質問紙に回答した児童生徒を対象としているため、上表の値と異なる。

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか		児童数の割合 (%)	平均正答率 (%)		生徒数の割合 (%)	平均正答率 (%)	
			国語	算数		国語	数学
1	当てはまる	30.8	68.0	66.5	24.8	62.6	57.8
2	どちらかといえば、当てはまる	51.4	63.6	60.9	52.1	60.1	53.1
3	どちらかといえば、当てはまらない	15.4	63.7	60.4	17.6	56.8	50.2
4	当てはまらない	2.3	63.2	62.6	4.4	53.5	49.5

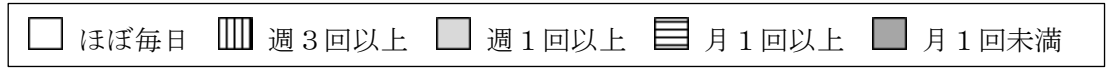
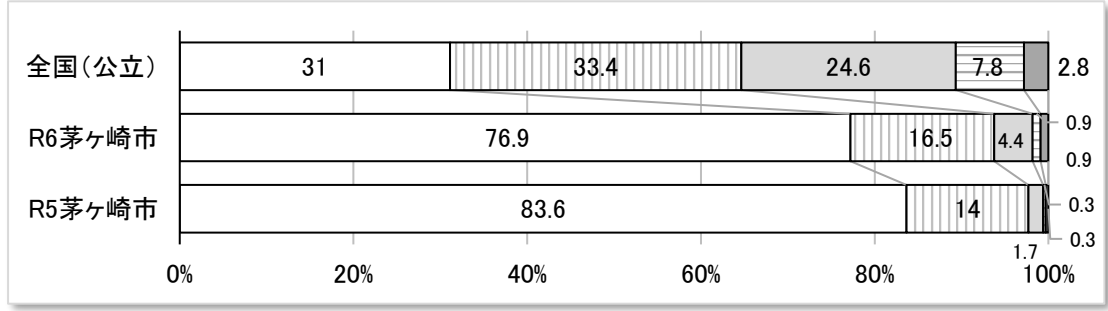
◆ 肯定的な回答をした児童・生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

(3) 【児童生徒質問紙】「5年生まで[中学生は1, 2年生のとき]に受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか」

【小学校】



【中学校】



- ◆ 週3回以上使用したとする回答が、児童は72.4%(全国59.5%)と、全国平均を12.9ポイント上回り、生徒は93.4%(全国64.4%)と、全国平均を29ポイント上回っている。
- ◆ 今年度の茅ヶ崎市における週3回以上使用したとする回答は、小学校・中学校ともに昨年度と同じである。

【本市における授業における ICT 機器の利用状況と、平均正答率との相関】

* 下表の児童生徒数の割合は、質問紙に回答した児童生徒を対象としているため、上表の値と異なる。

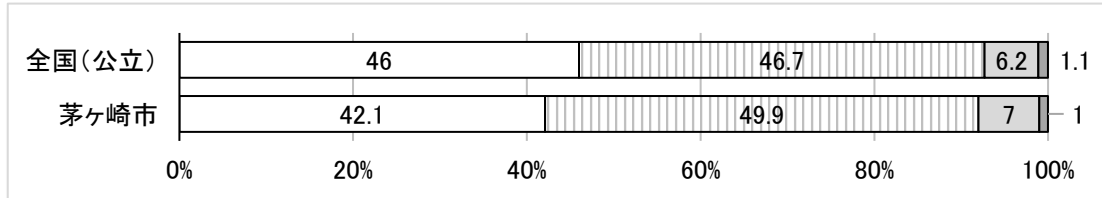
5年生まで(中学生は1, 2年生のとき)に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。		児童数の割合(%)	平均正答率(%)		生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
			国語	算数		国語	数学
1	ほぼ毎日	32.4	66.7	64.7	77.2	61.7	56.0
2	週3回以上	40.2	65.2	63.2	16.4	54.5	47.1
3	週1回以上	20.7	63.3	60.5	4.3	49.7	40.7
4	月1回以上	4.9	63.4	58.4	1.0	44.3	41.2
5	月1回未満	1.7	52.7	46.3	0.8	42.7	35.8

- ◆ 肯定的な回答をした生徒の方が各教科の平均正答率が高い傾向がみられる。

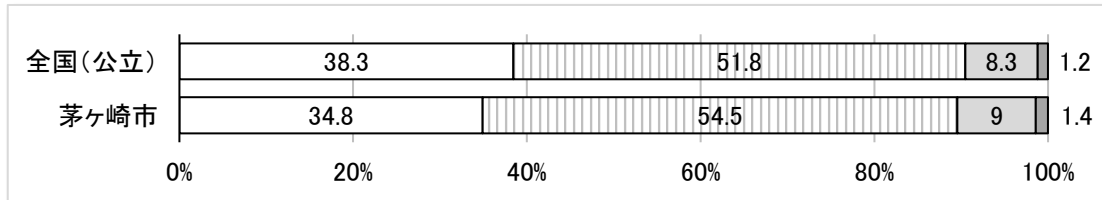
規範意識に関する状況

(1) 【児童生徒質問紙】「人が困っているときは、進んで助けていますか」

【小学校】



【中学校】

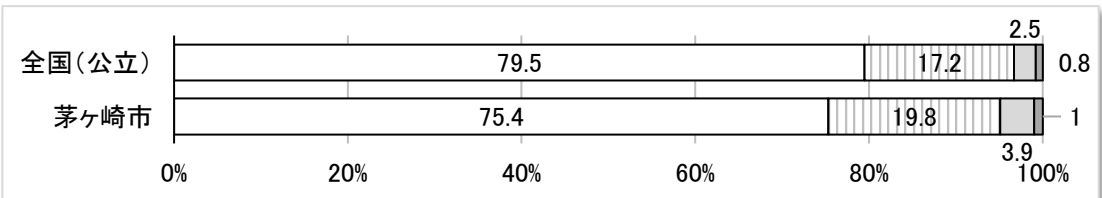


☐ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☒ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない

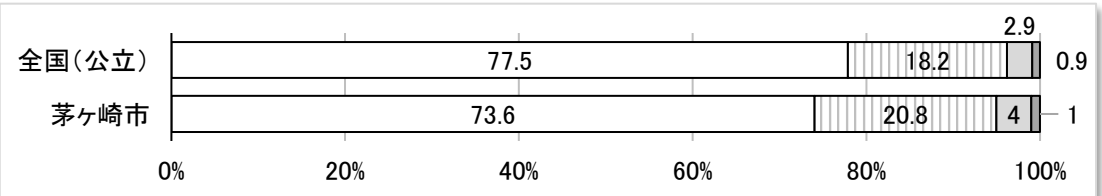
◆ 肯定的に回答した割合は、児童・生徒ともに約90%となっている。

(2) 【児童生徒質問紙】「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」

【小学校】



【中学校】

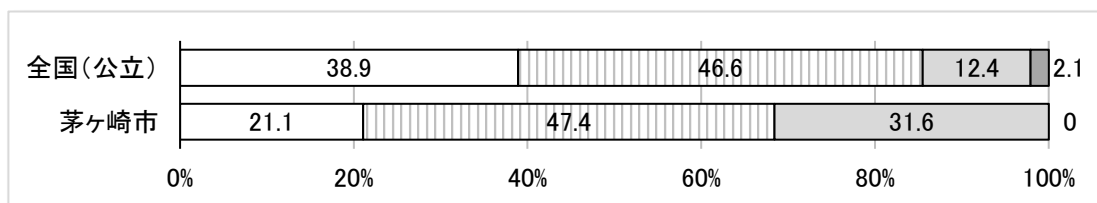


☐ 当てはまる ☒ どちらかといえば、当てはまる
☒ どちらかといえば、当てはまらない ☐ 当てはまらない

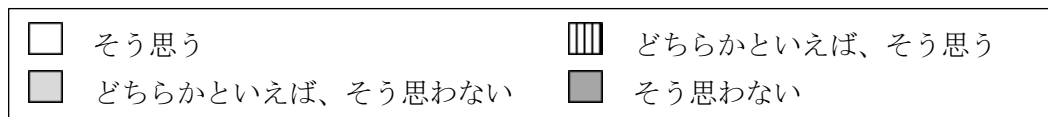
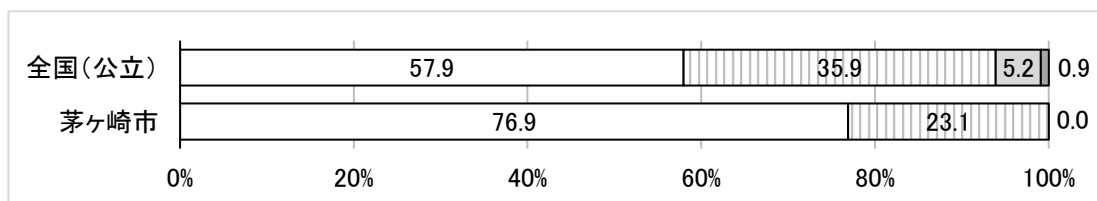
◆ 肯定的に回答した割合は、児童・生徒ともに約95%となっている。

(3) 【学校質問紙】「調査対象学年の児童・生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか」

【小学校】



【中学校】

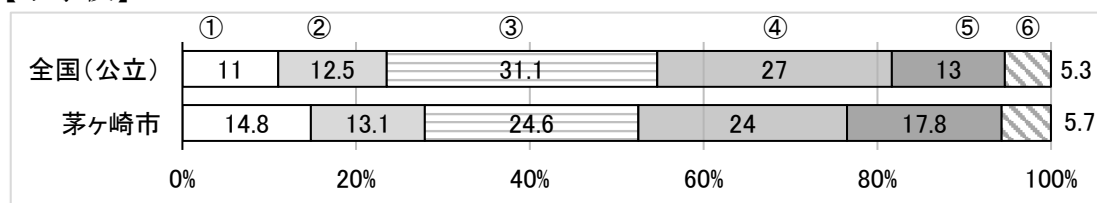


- ◆ 茅ヶ崎市の肯定的な回答が、小学校は68.5%(全国85.5%)、中学校は100%(全国93.8%)である。

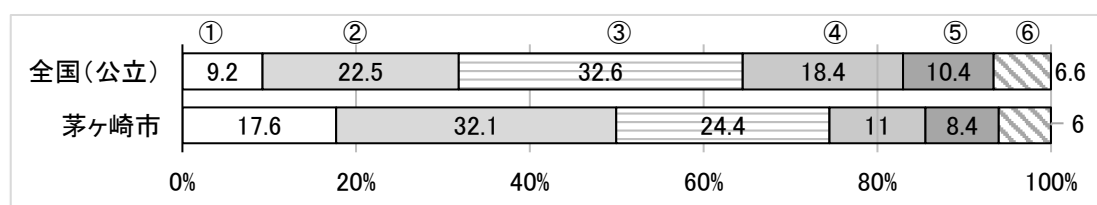
学習習慣等に関する状況

- (1) 【児童生徒質問紙】「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」

【小学校】



【中学校】



① 3時間以上 ② 2～3時間 ③ 1～2時間 ④ 30分～1時間 ⑤ 30分未満 ⑥ 全くしない

- ◆ 1日当たり30分以上勉強している割合(①～④)が、児童は76.5%(全国81.6%)と、全国平均を5.1ポイント下回っているが、生徒は全国平均とほぼ同じである。
- ◆ 1日2時間以上勉強している割合(①と②)が、生徒は49.7%(全国31.7%)と、全国平均を18ポイント上回っている。

【本市における、学校の授業時間以外の学習時間と平均正答率との相関】

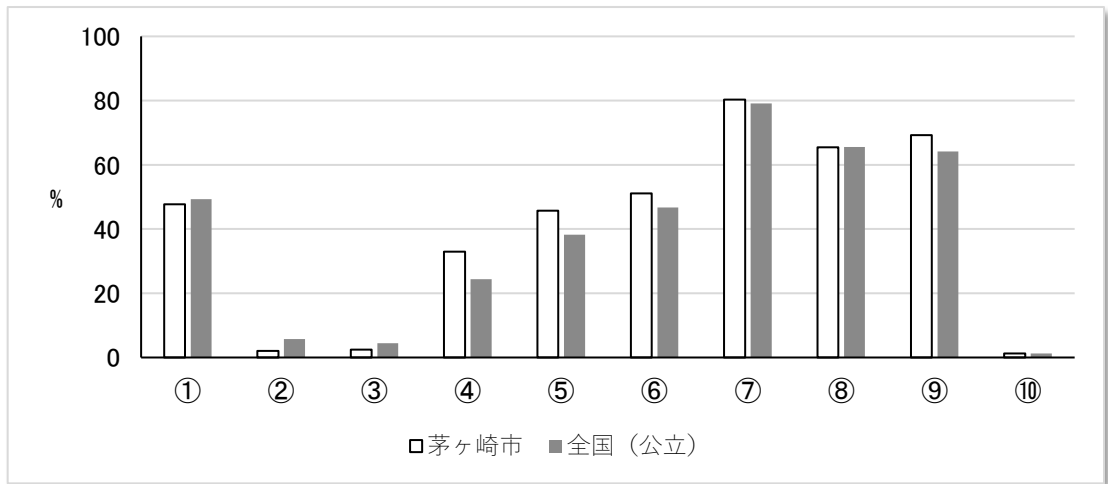
* 下表の児童生徒数の割合は、質問紙に回答した児童生徒を対象としているため、上表の値と異なる。

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)		児童数の割合(%)	平均正答率(%)		生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
			国語	算数		国語	数学
1	3時間以上	14.6	75.2	75.2	17.6	64.6	59.4
2	2～3時間	13.2	69.2	65.1	32.5	63.4	58.4
3	1～2時間	24.8	64.8	63.1	24.5	58.9	53.4
4	30分～1時間	23.9	62.5	59.4	11.1	53.4	45.1
5	30分未満	17.8	60.9	58.3	8.2	57.9	46.8
6	全くしない	5.7	52.8	49.5	5.7	42.2	34.9

- ◆ 学習時間が長い児童・生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

(2) 【児童生徒質問紙】「放課後や週末に何をしておすることが多いですか(複数選択)」

【小学校】

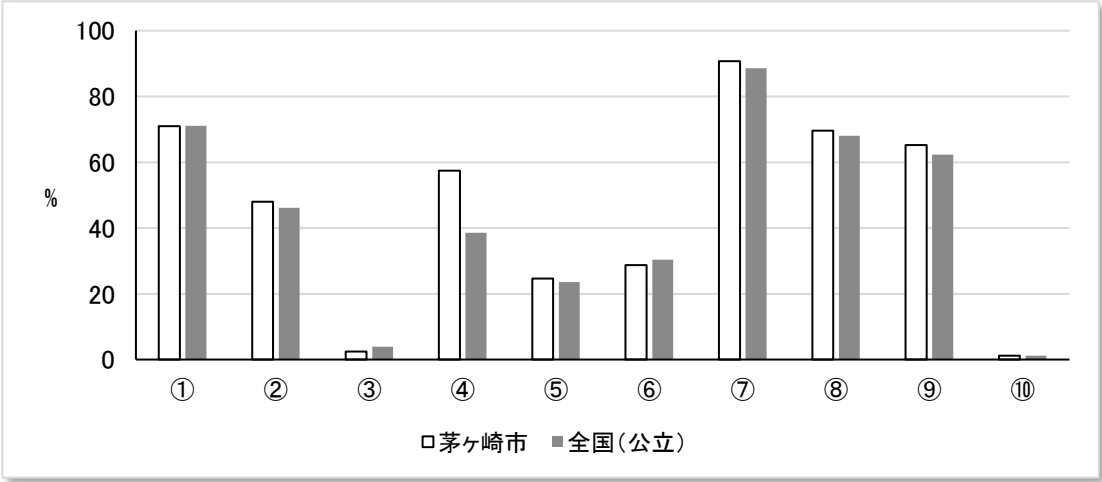


【本市における、放課後や週末の過ごし方と平均正答率との相関】

放課後や週末に何をしておすることが多いですか(複数選択)		本市の児童数の割合(%)	全国の児童数の割合(%)	平均正答率(%)	
				国語	算数
1	家で勉強や読書をしている	47.8	49.3	71.4	70.1
2	放課後子供教室や放課後児童クラブ(学童保育)に参加している	2.1	5.7	59.2	57.1
3	地域の活動に参加している(地域学校協働本部や地域住民などによる学習・体験プログラムを含む)	2.5	4.4	64.8	64.4
4	学習塾など学校や家以外の場所で勉強している	33.1	24.4	71.0	69.8
5	習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている	45.8	38.2	68.9	67.0
6	スポーツ(スポーツに関する習い事を含む)をしている	51.4	46.7	66.3	64.9
7	家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNS を利用したりしている	80.4	79.1	65.8	63.3
8	家族と過ごしている	65.7	65.6	66.2	63.8
9	友達と遊んでいる	69.4	64.2	64.4	61.8
10	1～9に当てはまるものがない	1.4	1.3	63.5	62.9

- ◆ 本市の児童は、④の「学習塾など学校や家以外の場所で勉強している」が33.1%(全国24.4%)、⑤の「習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている」が45.8%(全国38.2%)、⑥の「スポーツ(スポーツに関する習い事を含む)をしている」が51.4%(全国46.7%)となっており、全国を上回っている。
- ◆ 本市では、放課後や週末に①の「家で勉強や読書をしている」、④の「学習塾など学校や家以外の場所で勉強している」と回答している児童の平均正答率が高い。

【中学校】



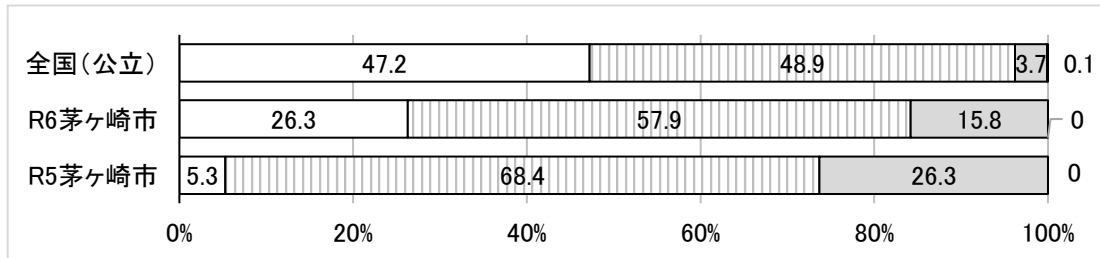
【本市における、放課後や週末の過ごし方と平均正答率との相関】

放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択)	本市の生徒数の割合(%)	全国の生徒数の割合(%)	平均正答率(%)	
			国語	数学
1 学校の部活動に参加している	71.8	71.1	61.8	55.9
2 家で勉強や読書をしている	48.2	46.1	65.0	60.3
3 地域の活動に参加している(地域学校協働本部や地域住民などによる学習・体験プログラムを含む)	2.4	3.9	62.5	64.1
4 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している	58.0	38.5	63.7	59.4
5 習い事(スポーツに関する習い事を除く)をしている	24.8	23.6	60.7	54.5
6 スポーツ(スポーツに関する習い事を含む)をしている	28.7	30.4	56.2	51.5
7 家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNS を利用したりしている	90.9	88.6	60.7	54.8
8 家族と過ごしている	69.7	68.0	61.8	55.0
9 友達と遊んでいる	65.5	62.3	60.0	53.5
10 1～9に当てはまるものがない	1.2	1.2	47.9	44.3

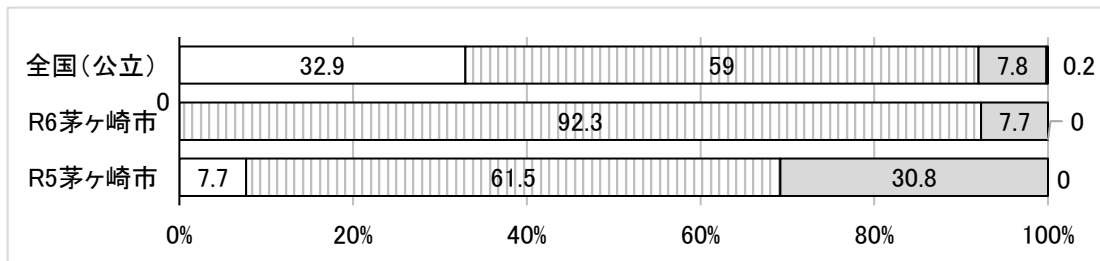
- ◆ 本市の生徒は、④の「学習塾など学校や家以外の場所で勉強している」が58.0%(全国38.5%)となっており、全国を上回っている。
- ◆ 本市では、放課後や週末に「家で勉強や読書をしている」と回答した生徒(②)は国語の平均正答率が高く、「地域の活動に参加している(地域学校協働本部や地域住民などによる学習・体験プログラムを含む)」と回答した生徒(③)は数学の平均正答率が高い。

(3)【学校質問紙】「調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、家庭学習について、児童(生徒)が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか」

【小学校】



【中学校】



☐ よく行った
 ☐ どちらかと言えば行った
☐ あまり行わなかった
 ☐ 全く行わなかった

- ◆ 肯定的な回答が、小学校は84.2%(全国96.1%)と、全国平均を11.9ポイント下回り、中学校は92.3%(全国91.9%)と、全国平均とほぼ同じである。
- ◆ 昨年度は、小学校・中学校ともに肯定的な回答が全国平均を大きく下回っていたが、今年度は、小学校が全国平均に近づき、中学校はほぼ同じになった。

各家庭で取り組んでいただきたいこと

(1) 基本的な生活習慣に関すること

毎日朝食を摂り、就寝・起床時刻を決めるなど、早寝早起き朝ご飯を意識し規則正しい生活を送ることや、前日のうちに学校の支度をしておくなど、毎日の生活を通してよりよい生活の習慣化を図ることが大切です。

また、スマートフォンの普及や1人1台端末の持ち帰り等、子どもたちのライフスタイル・学習スタイルの様々な場面において、大きな変化が見られます。ゲームやSNS、動画視聴等、ICT機器を使用する時間が増加していること、検索による情報収集が容易に行える状況等もあることから、お子様と相談しながら、使い方のルールや約束事を決めるなど、自分で使い方をコントロールできる力を身に付けていかれるよう支援していくことが必要です。

(2) 自己肯定感に関すること

自己肯定感とは、学習のみならず、物事に前向きに取り組むための土台となります。「自分にはよいところがある」と思う児童・生徒ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、自分のよいところを大切に、自己肯定感を高めることは、子どもたちのよりよい成長につながると考えられます。

お子様のよいところや頑張りを認め、保護者としてもそれを大切に思っていることを伝える場面を増やし、失敗しても諦めずに挑戦する子どもの姿につなげることが大切です。日々の些細な出来事などでもお子様と向き合い会話を重ねながら、苦手なことや得意なこと、興味のあることなどについて理解を深めていくことが必要です。

(3) 主体的・対話的で深い学びの視点に関すること

小・中学校ともに、授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりするという点において、さらなる成長が期待できます。学習した内容を日常的に活用する機会を意識し、設けることが大切です。

家庭では、お子様が学校で学んだことを話題にするなどし、学校の授業内容を保護者も共有することが大切です。授業で学んだことと、日常の中で起こったことや見たニュース等をつなげ、話題にし、意識的に子どもの考えを表現させる機会を持つことも大切です。

(4) 規範意識に関すること

規範意識の醸成のためには、「公共の場で、どのように振る舞うことが適切であるか」、「社会の一員として、どのように責任ある行動をとることができるか」等、お子様が自ら考え、行動していくための経験を積み重ねることが必要です。そのために、身近な大人が手本を示していくことが大切です。

日常生活におけるマナーやルールは、身の回りの大人の姿を見て身に付くもので

す。大きな社会問題となっているいじめをはじめ、交通ルールや感謝の気持ちの表し方等、様々な場面について、学校やご家庭でも、相手の立場を想像し物事を考える大切さを話題にしていく必要があります。

(5) 学習習慣等に関すること

家庭学習や宿題に取り組んだり、習い事に通ったりするなど、学校外での学習の時間を取り入れることで、より学習内容が身に付いていることが窺えます。その中で、保護者も一緒に学習に取り組んだり、学習のきっかけとなる言葉がけをしたりすることで、子どもの学習状況や取組を把握するとともに、お子様が自分で課題を設定し計画を立てて取り組んだり、発達段階に応じて望ましい学習習慣が身に付くよう、家庭学習への意欲を高めていったりすることが大切です。

各小・中学校が取り組むこと

(1) 基本的な生活習慣に関すること

現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容として、「心身の健康の保持増進に関する教育」、「食に関する教育」について、児童・生徒の発達段階や学校、地域の実態を考慮し、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図ることが必要です。（参照：小学校学習指導要領解説総則編 P.236～P.243、中学校学習指導要領解説総則編 P.232～P.239）

(2) 自己肯定感に関すること

自己肯定感は、学習への意欲を支える基盤となるものです。

本調査では、児童・生徒が自分自身によいところがあり、教職員に自分のよいところを認めてもらっていると感じています。同時に、「よいところを認めてくれている」ことについて肯定的でない回答をした児童・生徒もいることから、児童・生徒が学校生活において、どのような場面で戸惑いを感じているか、どういった点が自分自身のよいところだと考えているかなど、児童・生徒の内面に目を向ける必要があります。

また、よい結果のみを褒めるのではなく、その過程を大事にすることや、上手くいかなかった際にも、取組の姿勢を認め、うまくいかなかった原因について考えさせながら、次の意欲につながる言葉かけをしていくことが大切です。

さらに、教職員は、児童・生徒一人一人が、自らの学習を調整し、粘り強く取り組んでいかれるよう指導と評価を繰り返しながら、その中で児童・生徒の取組や頑張りを積極的に褒めたり、励ましたりすることが大切です。

(3) 主体的・対話的で深い学びの視点に関すること

小・中学校ともに、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表」したという点においては、全国平均を

上回って肯定的な回答をしています。しかし、「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができる」という点においては、全国平均とほぼ同じではあるが、肯定的でない回答をした児童・生徒がやや増えています。このことから、各学校の授業の中で、学習した内容や考えたことを次の学習や単元とつなげたり、教科横断的な視点を持った教科間のつながりを意識したりすることで、日常的に学習したことをつなげて活用する機会を設けることが必要です。

1人1台端末の活用においては、学校での取組が進んできており、小・中学校ともに、多くの場面で利用されていることが結果として表れています。今後もICT機器を有効活用していくとともに、「活用目的の明確化」や「情報活用能力の育成」を意識した授業づくりを進めていくことが大切です。

(4) 規範意識に関すること

学校の教育活動全般を通して、児童・生徒が互いに尊重し合い、協働してよりよい学級や学校をつくっていく上で、共通に求められるルールやマナーを学び、規範意識を身に付けていくことが重要です。そのためには、規律を守ることの必要性を児童・生徒が主体的に考え、よりよく判断できる力を育むことが必要です。

学習規律について、実際に規律を意識し、落ち着いて授業を受けているという質問に対し、約3割の児童が肯定的でない回答をしており、授業中の規律や学校生活におけるルールについて、教職員が共通認識を持ち、学校全体で指導をしていくことが必要です。同質問における生徒の回答は10割が肯定的な回答をしており、引き続き、生徒が学習規律を維持することの大切さを意識できるような指導に努めることが大切です。

また、いじめはどんな理由があってもいけないことについて、まだ否定的な回答が見られることから、学校は、教育活動全般における道德教育の充実を図るとともに、たとえば、「よかれと思ってしたことであっても、相手が心身の苦痛を感じれば法律上のいじめに該当する」ということについて、児童・生徒の理解を深める必要があります。引き続き、いじめ問題に対する正しい理解と多様な生き方や価値観を認め合える学校を目指し、いじめの未然防止に取り組んでいくことが重要です。

一方、学校は成長途中である児童・生徒が集まる場所である以上、人間関係のトラブルは当然起こりえます。発生してしまったいじめ事案の解決を自校の最優先課題と位置づけ、組織的に対応し、全ての児童・生徒が安全・安心な学校生活を送れるよう、取組を推進していくことが必要です。

(5) 学習習慣等に関すること

宿題や家庭学習に取り組むことで、学校での学習内容を定着させたり、学校だけでなく家庭でも、自ら学習に向かおうとする気持ちや機会をつくったりすることは大切なことです。各学校においては、児童・生徒の実態に応じて、宿題や家庭学習の内容を精

査しながら、どのように取り組ませるかについて家庭と共通理解を図っていく必要があります。

児童・生徒の実態に応じた取り組ませ方、無理のない計画といった事前の準備や指導に加え、事後の見取りと評価、励ましなど、児童・生徒の学習意欲を高めるための関わりを意識しながら、各家庭と連携して、児童・生徒の学びを深めていくことが大切です。

教育委員会として

(1) 学校生活や学習への意欲を高めるために

児童・生徒が学校生活をより楽しいものと感じ、学習への意欲を高めていくためには、学校や学級が居心地のよい雰囲気、学習しやすい環境であることが大切だと考えます。そのためには、児童・生徒が今の学校生活や授業で学んだことをどのように感じているか、どのくらい理解できているのかを教職員が丁寧に見取ることも大切です。

教職員が児童・生徒一人一人と向き合い理解し、児童・生徒のよいところを認め、苦手としていることについて一緒に取り組んだり、児童・生徒がお互いを認め、安心して学校生活を送れる学校づくりを進めたりすることで、児童・生徒がたくさんの大人に認められていることを実感し、自己肯定感を高め、学びに意欲的に向かう姿へとつなげていくことができると考えます。

教育委員会といたしましては、教職員がより深い児童・生徒理解を進めることができるように、児童・生徒指導担当教員研究会をはじめ、人権教育講座、道徳研修会等の研修の充実や「生命(いのち)の安全教育」の推進を図るとともに、学校訪問等の機会を通じて、学校における児童・生徒の学びの姿から、適宜、指導・助言等を行ってまいります。

(2) 学びの質を高めるために

児童・生徒の学びの質を高めるために、前述の深い児童・生徒理解とともに、学校での活動の中心である授業の質を向上させることが必要です。児童・生徒を理解し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業づくりをすることが、一人一人の意欲や理解も含めた、学びの質を高めることにつながります。そのために、各学校が授業づくり・指導力の向上を図れるよう、教育委員会が所管する推薦研究や計画訪問、校内研究推進担当者連絡会等、様々な機会を通じて、本調査の結果の共有を図るとともに、児童・生徒が抱える課題や教育活動に関する改善点について研究してまいります。

児童・生徒の学びの質を高めるために、学校においては、指導と評価の一体化を継続的に意識した単元・授業づくりや教科横断的な学びの実践等を進めていくことが重要であると考えます。その中で、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目

指した取組となるよう、指導・助言に努めてまいります。

同時に、教職員と児童・生徒や児童・生徒同士が考えを交流・共有する方法、調べ学習の充実等、より深い学びへつなげるために、1人1台端末をはじめとした ICT 機器の活用の充実にも取り組むことができるよう、教職員が活用方法を学び合ったり、ICT を活用した指導力の向上を図ったりする機会の充実に努めてまいります。

「令和6年度全国学力・学習状況調査結果及び分析」

発行日 令和6年12月26日

発行 茅ヶ崎市教育委員会 教育総務部 学校教育指導課 教育センター